

東アジア世界史研究センター 2011年度活動報告

専修大学社会知性開発研究センター内の一組織として開設された、東アジア世界史研究センターにおいて申請していた研究プロジェクト「古代東アジア世界史と留学生」は、2007年度に文部科学省によって「私立大学学術研究高度化推進事業」(オープン・リサーチ・センター整備事業)として選定された。本年度はこの事業の最終年度の5年目であった。

本学は、中国の西北大学に収蔵されて間もない2004年に、日本の遣唐留学生であった「井真成」の墓誌を同大学と共同で発見・確認した。この墓誌の発見は日中両国の研究者に大きな衝撃を与え、2005年1月には両大学の共同プロジェクトとして国際学術シンポジウムなどを開催した。今日もこの墓誌は多くの研究を蓄積し、それらは本研究プロジェクトの目指す留学生の交流に絞っての東アジア世界における構造研究の基盤となっている。

こうした東アジアの諸地域は、それぞれの国家がそれぞれの目的をもって交流し、様々な文化・文物の流入を期待した。それを直接担ったのが、留学生であった。この留学生の個々の活動、並びにその政治的、社会的、文化的背景を通して、東アジア世界史の有効性に関して新たな方向性を打ち出すべく、当センターは本研究を継続してきた。

今年度も、Ⅰ. 秦・漢時代から隋・唐時代の中国への東アジアからの交流・留学生の史資料上の全貌を明らかにすること、Ⅱ. 古代の東アジアの国々への影響を「媒介者」を通してその歴史的意義を問いつつ解明すること、Ⅲ. 東アジア世界史について内外の研究者と交流し、若手研究者を育成すること、Ⅳ. 研究成果を公開講座・シンポジウムを通して公開すること、を引き続き研究目標に据えた。この目標の達成のために本プロジェクト内に設置した、①遣唐使井真成墓誌関係史資料の研究、②日本・中国・朝鮮における留学生の史資料についての研究、③政事・制度・文化思想の接触と受容からみた東アジア世界の研究、④物の移動からみた東アジア世界の研究、という4つのテーマは最終年度である今年度も鋭意継続された。

このプロジェクトの運営のために初年度立ち上げた、「東アジア世界史研究センター委員会」は、今年度も各研究テーマについての計画を策定し、進行状況の検討を行なった。また研究代表者は、東アジア世界史研究センター代表として委員会での議論を主導し、各研究テーマの進捗状況と今後の計画について必要な調整を行なうとともに、東アジア世界史研究センターの上部機関である社会知性開発研究センターに報告し、承認を得る役割を円滑に果たしている。さらに、4つの研究テーマのリーダーを中心に組織された「東アジア世界史研究センター運営小委員会」、ならびに研究代表者の補佐としての事務局長および事務室は、各研究テーマと関連した事務的な業務を円滑に進行させた。

各研究者も研究を進めるとともに、研究成果を発表するために開かれる公開講座・シンポジウム、および本センターを研究拠点とすべく設置された研究会の企画、さらには『年報』等の編集を分担し、その責任者として、東アジア世界史研究センター委員会において適宜進捗状況を報告した。

以上のような研究体制を土台にして東アジア世界史研究センターでは研究活動を行ない、今年

度も、公開講座を2回開催することにより、その研究成果を広く公開した。さらにこれらにあわせ、我が国の研究者の参加を広く募った研究会を開催し、本研究センターをこのテーマに関する情報や人的交流のセンターとなるべく努めている。これらの内容は『年報』を発行することで研究者のみでなく、一般市民にも公開することにした。本プロジェクト開始以来、収集している、留学生についての史資料・研究文献についても、インターネット上でデータベース「古代東アジア世界史年表」という形での公開を着実に進めた。本年度も、これらの研究の推進、および補助的役割を担う若手研究者の育成のためにR・A（研究補助員）を採用した。

具体的な研究活動は、上述した「Ⅰ. 秦・漢時代から隋・唐時代の中国への東アジアからの留学生の史資料上の全貌を明らかにすること」について、本年度も中国・日本・朝鮮・渤海の史資料から留学生の記事を収集する作業に努め、そのデータベース「古代東アジア世界史年表」として、交流年表とその史料をホームページ上に公開しているが、今年度は、ついに当初の計画通り、581年～926年までのすべての項目を完成させることができた。「Ⅱ. 古代の東アジアの国々への影響を「媒介者」の歴史的意義を問いつつ解明すること」については、第6回公開講座において、井真成の「地位」についての総括として、昨年度までの、内外の研究者の間で大きな話題となった本プロジェクトからの提言に関連する報告を行なった。その成果は本年度の『年報』6号に掲載される。「Ⅲ. 東アジア世界史について内外の研究者と交流し、若手研究者の育成をすること」については、第5回の公開講座および第6回研究会において、中国の陝西省考古研究院隋唐考古研究部長の劉呆運氏に、また第6回公開講座では、同じく中国の西北大学国際文化交流学院副院長の高兵兵氏に講演を依頼した。こうした機会を通じて、当センター研究員ならびに国内の研究者との交流を実現した。また若手研究者の育成については、R・Aとして3名を採用して研究の進展させる機会を提供した。今年度そのうちの1名が博士論文を提出できたことは大きな成果である。また上記の研究会の開催などを通して、情報や人的交流のセンターとしての本センターの役割の一端を果たすことができた。「Ⅳ. 研究成果を公開講座・シンポジウムを通して公開すること」については、今年度も多くの参加者を得て、公開講座とシンポジウムにかわる研究総括としての公開講座を各1回開催して広く市民に研究成果を公開することができた。今年度は、東アジア世界における文化受容、および国際情勢を公開講座の中心テーマとした。第5回の公開講座では、墓制から見た東アジアの交流をあつかい、中国・朝鮮半島・日本の共通する墓制と各地域の独自のそれとを分析した。2日にわたった第6回公開講座では、自国の文化と外来である中国文化とが、どのように影響しあったのかを菅原道真・日本に渡来した「唐人」を通して分析し、また公開講座としてはあまり考察されてこなかった渤海と日本との関係を検討し、さらに海からの視点でもって中国と日本との交流を捉えなおした。これによって人と「モノ」の移動と文化の受容の問題はさらに具体的になった。さらに本プロジェクト最終年度の研究総括を行なった。本年度の『年報』6号（本誌）の発行は、これらを広く公開する役割を担っている。

研究環境の整備に関連して、東アジア世界史研究センター室を中心に、昨年度にも増して研究を推進する条件を整備させた。さらに研究に不可欠である史料および文献の調査と収集・整理を進めるべく、5年間を通して、日本・中国の文献史料の収集・整理に努め、それに関連する図書・工具類を購入することができた。

なお、本プロジェクトに関する情報発信の手段として、引き続き Web 上にホームページを公開している。研究活動の詳細については、この東アジア世界史研究センターのホームページをご覧ください (<http://www.senshu-u.ac.jp/~off1024/>)。

(1) 2011年度公開講座

2011年7月9日(土) 専修大学生田校舎 参加者221名

第5回公開講座「墓制から見た東アジアの交流」

司会・進行 飯尾 秀幸(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)
矢野 建一(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

講演

13:00~13:20 荒木 敏夫(東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)
「趣旨説明」

13:20~14:20 高久 健二(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)
「楽浪郡と三韓・倭の対外交流」

14:20~15:20 土生田 純之(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)
「墓制から見た朝鮮三国と倭」

15:40~16:40 劉 呆運(陝西省考古研究院 隋唐考古研究部長)
「長安城郊外の唐代墓と東アジア」
通訳:三宅 俊彦(専修大学兼任講師)

16:40~18:00 討論

2011年11月19日(土)・20日(日) 専修大学神田校舎 参加者のべ316名

第6回公開講座「古代東アジアの国際情勢と人流」

司会・進行 飯尾 秀幸(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

講演

11月19日(土)

13:00~13:15 土生田 純之(東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)
「挨拶」

13:15~14:15 高 兵兵(西北大学国際文化交流学院副院長・教授)
「菅原道真と九世紀の日本外交」

14:30~15:30 浜田 久美子(国立国会図書館司書)
「日本と渤海の文化交流ー承和年間の『白氏文集』受容を中心にー」

15:50~17:00 質疑応答

11月20日（日）

- 10：00～11：00 山内 晋次（神戸女子大学准教授）
「9～12世紀の日本とアジア－ヒトの移動の視点から－」
- 11：10～12：10 矢野 建一（東アジア世界史研究センター研究員／専修大学教授）
「遣唐使と来日『唐人』－皇甫東朝を中心として－」
- 13：30～13：50 窪田 藍（東アジア世界史研究センターリサーチ・アシスタント）
「『古代東アジア世界史年表』の活用－『白村江の戦い』を事例として－」
- 14：00～15：00 鈴木 靖民（國學院大學教授・横浜市歴史博物館館長）
「東アジア世界史と東部ユーラシア世界史」
- 15：20～16：30 討論
- 16：30～17：30 研究総括
- 矢野 建一（東アジア世界史研究センター研究員／専修大学教授）
「井真成墓誌研究の成果と課題」
- 飯尾 秀幸（東アジア世界史研究センター研究員／専修大学教授）
「東アジア世界史の有効性をめぐって」
- 荒木 敏夫（東アジア世界史研究センター代表／専修大学教授）
「古代東アジア世界史と留学生－五年間の取り組みと課題－」

（2）2011年度研究会

2011年7月10日（日）専修大学生田校舎

第6回研究会

- 司会・進行 矢野 建一（東アジア世界史研究センター研究員／専修大学教授）
講演
- 13：00～17：00 劉 杲運（陝西省考古研究院 隋唐考古研究部長）
「長安城南郊外における唐代墓の発掘と研究」
通訳：三宅 俊彦（専修大学兼任講師）

（3）調査報告

国内調査記録

氏 名 リサーチ・アシスタント 多田 麻希子

用務地 奈良県

用務先 唐招提寺、東大寺、奈良国立博物館

出張日程 平成23年11月25日（金）～平成23年11月28日（月）

出張報告

本出張の主な用務地である奈良県は、古代日本において中国や朝鮮半島からもたらされた様々

な文物・文化・制度をもとに、日本の実情に沿って花開かせた文化の中心地の一つである。今回は、奈良県の上記用務地にて収蔵資料の把握や寺院・遺址等の実見を行った。また、関連研究書の収集による研究状況の把握と併せて、古代日本が中国や朝鮮半島からもたらされた様々な文物・文化・制度をどのように享受し、自国のものへと変容させていったかという過程を深く考察することが出来た。これらは今後の本研究課題の推進に寄与し得るものと考えられる。

(4) 2011年度活動記録

2011年

- 4月1日 R・A 辞令交付
事務、ならびに R・A 研究との研究補助体制引継ぎ
- 4月26日 第1回運営小委員会
内容 今年度の研究計画の確認
公開講座の実施要項の確認
シンポジウムの論点整理と研究会の企画案
- 5月10日 第1回センター会議
議題1 平成23年度活動計画
2 公開講座について
報告事項1 R・A の新任
- 6月28日 第2回運営小委員会
内容 シンポジウム・研究会の報告者調整
- 7月5日 第2回センター会議
議題1 最終報告書について
2 7月9日公開講座について
3 7月10日研究会について
- 7月9日 第5回公開講座 生田校舎10号館10101教室
- 7月10日 第6回研究会 生田校舎10号館ゼミ101A
- 10月18日 第3回運営小委員会
内容 新プロジェクト計画・立案
「古代東アジア世界史年表」の補訂と外部点検の実施
- 10月25日 第3回センター会議
議題1 公開講座の準備状況の確認
2 新プロジェクトの研究計画案の策定について
- 11月8日 第4回運営小委員会
内容 公開講座における研究総括について
- 11月15日 第4回センター会議
議題1 11月19日・20日公開講座について

11月19日・20日 第6回公開講座 神田校舎1号館303教室

11月25日 国内出張（11月28日まで）

R・A 多田 麻希子

出張先 奈良県

2012年

3月9日 第5回センター会議

議題1 5年間の取り組みの総括

2 事務局の閉鎖にともなって